



2023年度

「きらり☆」看護技術を学べる
～地元創成看護を担う看護師
リカレント教育プログラム～

報告書



神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター
リカレント教育グループ

目次

ご挨拶	3
Ⅰ. 神戸市看護大学・リカレント教育	
1. プログラムの概要	4
2. プログラムの特徴	4
3. プログラムの構成	5
4. 開講日程	6
5. 受講生の対象の条件	7
6. ダイバーシティ組織図	8
Ⅱ. 実績報告	
1. 開催状況	9
2. 受講生の概要	1 7
3. アンケート結果	1 8
4. プログラム終了時の進路状況	1 8
5. 神戸看護学会報告	1 9
6. 事業まとめ	2 1
＊講師一覧	2 2
＊ダイバーシティリカレント教育グループ メンバー	2 3

ご挨拶

今年は神戸市看護大学のリカレント教育プログラムも2年目となりました。昨年のプログラムの総括を踏まえ、**2023年度**は働きながら学び続けられるよう受講生の対象の条件を積極的に広げました。

またプログラムの中心は看護技術の本質をとらえ直すことに変わりなく、これは本学の看護学教育の強みでありますので、引き続き継続していきたいと思っています。

さらにリカレント教育は、いちかんダイバーシティ看護開発センターのなかのグループとして位置付けられました。これは本教育が大学の重要な社会的使命の一つであることを示すものです。

今年も教職員は皆様との新しい出会いを楽しみにしています。

プログラムを通して、これからの看護について皆様と一緒に考え、楽しく熱くディスカッションしたいと思います。

リカレント教育グループ 池田清子



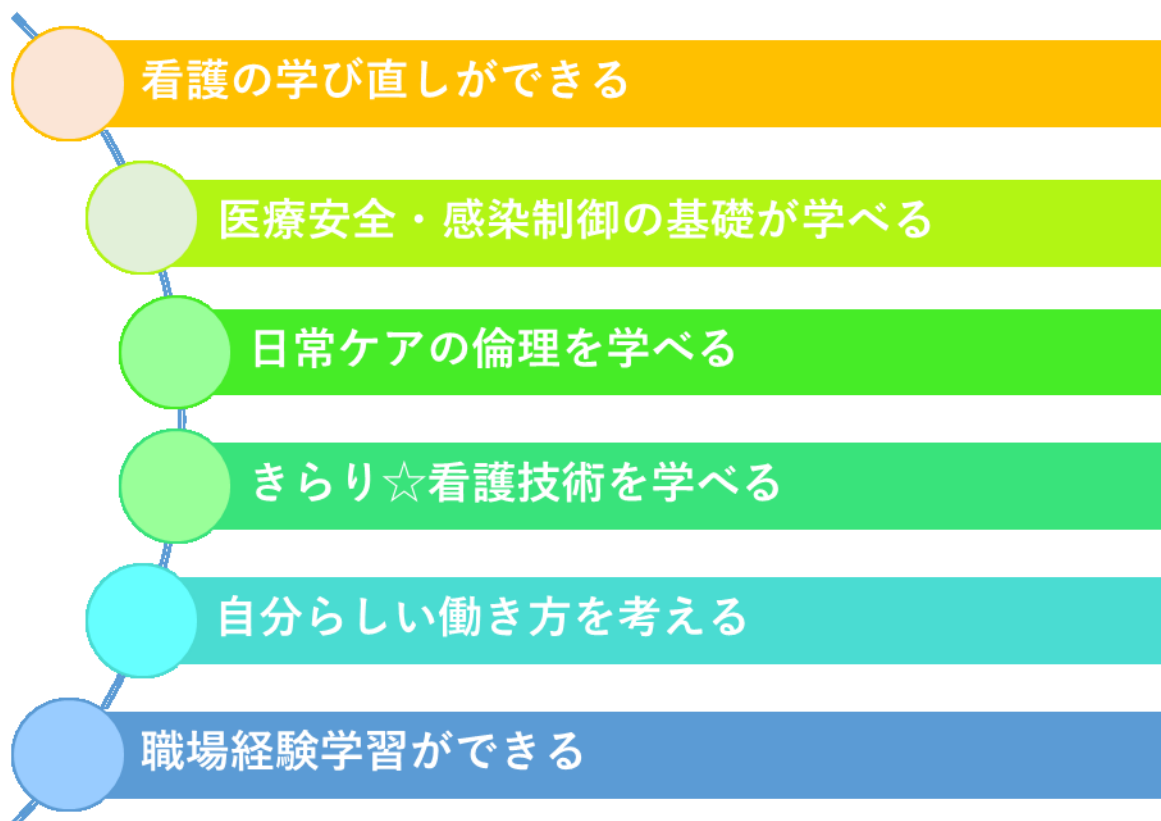


I. 神戸市看護大学・リカレント教育

1. プログラムの概要

- 1) 就職・転職・正規雇用を目指す看護師向けのリカレント教育プログラムです。
- 2) 患者さんや利用者さんに安心や幸せを届けられる「きらり☆」とした看護技術を一緒に学ぶことを重点に置いています。
- 3) 今後の働き方を一人一人が考えられる授業や、働き方をイメージできる機会を設けています。
- 4) 育児・介護、働きながらなどでも参加しやすい、オンライン授業を多く取り入れています。
- 5) 質問や疑問に対応する、双方向の授業を行います。

2. プログラムの特徴



3. プログラムの構成

科目名	必修	時間数	回数	企画者	講師
地域包括ケア	●	2	2回	小山	金中宏江（中央市民病院）
					丸尾智実（神戸市看護大学）
キャリア開発（講義）	●	2	2回	澁谷	澁谷幸（神戸市看護大学）
フットケア	A	10	2回	池田・ 後藤	西田壽代（フットケア） 桜井祐子（フットケア）
キネステイク	A	12	2回	新澤	柴田しおり（神戸常磐大学）
糖尿病看護面接技術	A	10	2回	畑中	畑中あかね（神戸市看護大学） 桑原京子（西市民病院） 本吉裕美子（神鋼記念病院）
エンドオブライフケア	A	12	2回	高山	藤原由佳（訪問看護ステーションあさんて・はな） 篠崎智子（北播磨総合医療センター） 向井美千代（兵庫県看護協会） 鶴屋邦江（新生病院） 正井志穂（西神戸医療センター） 高山良子（神戸市看護大学）
清潔ケア技術	B	6	2回	内山	内山孝子 澁谷幸
エンゼルケア	B	3	1回	新澤	大垣麻里（湯灌・納棺・メイクサービス株式会社沙羅）
キャリア相談	●	1		小山	丸尾、石橋、畑中
キャリア相談	－		30分/回	予約制	丸尾、石橋

●は、必修科目：2科目（計4時間）

選択科目A：2科目以上3科目以内（計20～32時間）

選択科目B：1科目以上（計3～9時間）

（最低25時間以上受講）

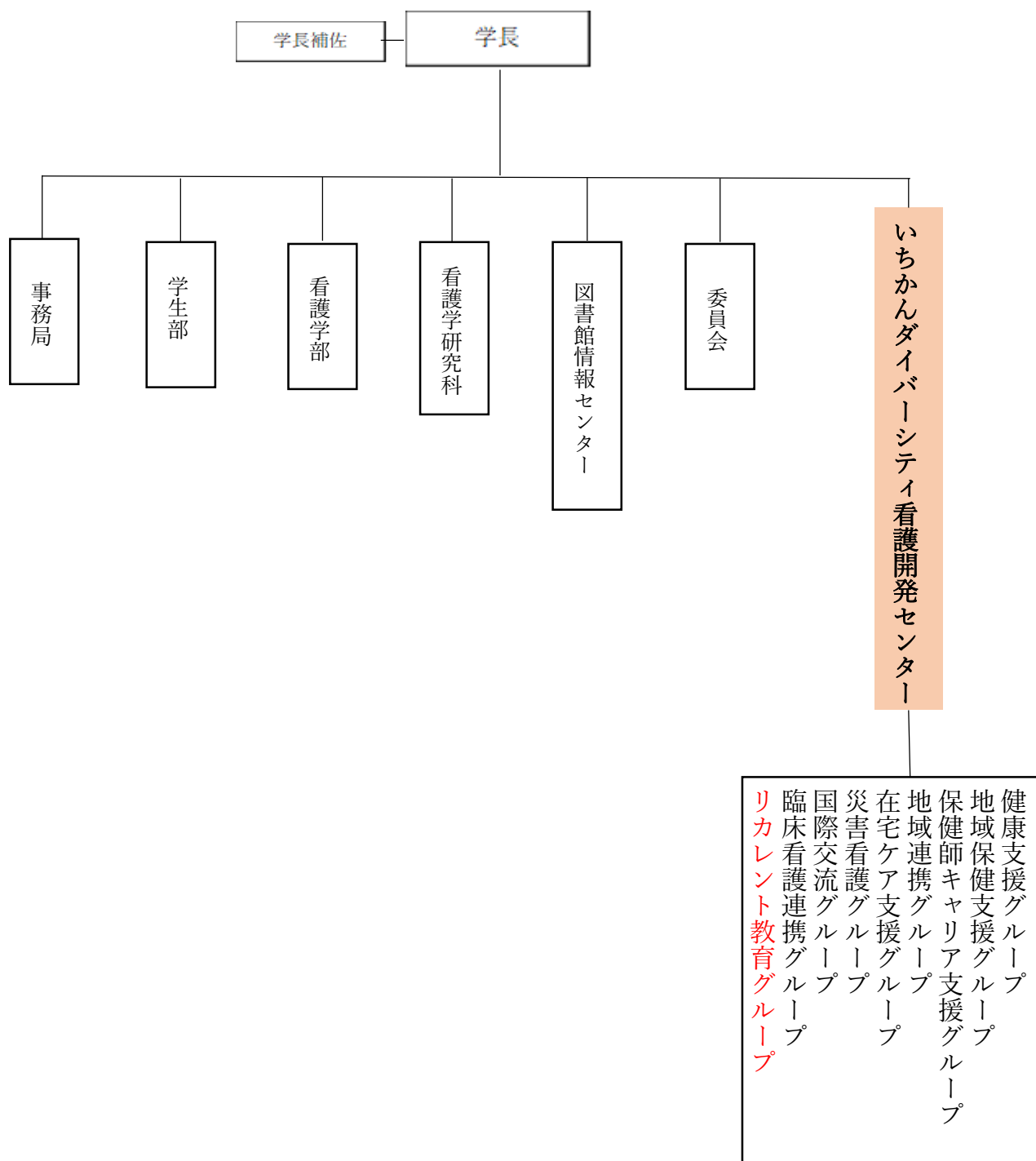
4. 開講日程

<div> <div>2023年度 地元看護を担う看護師リカレント教育 時間割表</div> <div>  ⇒ 大学対面  ⇒ オンライン <small>※感染拡大状況によっては、対面授業がオンライン授業に変更になる可能性があります</small> </div> </div>													
2023年		1時間目			2時間目			3時間目			4時間目		
月日	曜日	10:00~11:00			11:10~12:10			13:10~14:10			14:20~15:20		
		科目名	形式	講師	科目名	形式	講師	科目名	形式	講師	科目名	形式	講師
9月28日	木							開講式		キャリア相談 (14:00~14:40)			
10月2日	月	エンゼルケア		大垣	エンゼルケア		大垣	エンゼルケア		大垣			
10月4日	水							キャリア開発 (1)		澁谷			
10月5日	木												
10月9日	月												
10月11日								地域包括ケア (1)		丸尾			
10月12日	木	エンド・オブ・ライフケア 【1日目】 9時~17時  (高山・外部講師)											
10月16日	月							フットケア 【1日目】 12時~16時  (池田・後藤・外部講師)					
10月17日	火	フットケア 【2日目】 9時30分~15時30分  (池田・後藤・外部講師)											
10月21日	土	エンド・オブ・ライフケア 【2日目】 9時~17時  (高山・外部講師)											
10月23日	月												
10月26日	木												
10月30日	月												
11月2日	木	地域包括ケア (2)		金中									
11月6日	月				清潔ケア		内山/澁谷	清潔ケア		内山/澁谷	清潔ケア		内山/澁谷
11月9日	木	キネステティック 【1日目】 9時30分~16時30分  (外部講師)											
11月13日	月				清潔ケア		内山/澁谷	清潔ケア		内山/澁谷	清潔ケア		内山/澁谷
11月16日	木	キネステティック 【2日目】 9時30分~16時30分  (外部講師)											
11月22日	水	糖尿病看護面接技術 【1日目】 10時~16時30分  (畑中ほか)											
11月27日	月	糖尿病看護面接技術 【2日目】 10時~16時30分  (畑中ほか)											
11月29日	水							キャリア開発 (2)		澁谷			
11月30日	木												
12月4日	月							修了式					
		1時間目			2時間目			3時間目			4時間目		
		10:00~11:00			11:10~12:10			13:10~14:10			14:20~15:20		

5. 受講生の対象の条件

- ①看護師の資格を有する方
- ②今後の看護実績に活かす意欲のある方
- ③以下のいずれかの希望がある方
 - ・ 復職・就職を希望している方
 - ・ 非正規雇用から正規雇用を目指す方
 - ・ 看護技術のスキルアップを目指す方（今の現場で看護技術力をつけたい！）
 - ・ 看護師としてのキャリアについて考えてみたい方
- ④神戸市看護大学で受講（演習等）ができる方
- ⑤オンライン授業を受けることができる方
- ⑥本プログラムに初めて参加される方
- ⑦費用についてご了承頂ける方
 - ・ 受講料 無料
 - ・ 自己負担費用：保険料（約2,500円）、交通費、PC、Wi-Fi、プリンタ、オンライン授業や対面授業、演習の受講に必要な費用（通信費、昼食代、筆記用具、オンライン授業の資料印刷等）

6. ダイバーシティ組織図



Ⅱ 実績報告

1. 開催状況

(1) 地域包括ケア

講師：丸尾智実（神戸市看護大学）

金中宏江（神戸市医療センター中央市民病院 患者総合支援部）

地域包括ケアは必須科目で、2回に分けて実施しました。1回目は、知っているようで知らない地域包括ケアの概要を中心に、わが国の施策に関連付けて説明をしました。「地域包括ケアが必要」という言葉はあちこちで聞かれますが、地域包括ケアにおいて看護職にどのような期待がされているのかを説明させていただき、皆さんが自分のキャリアや働き方を考えるきっかけにもしていただけたと思います。

2回目は、神戸市立医療センター中央市民病院の総合患者支援部金中宏江先生に、急性期病院から地域の医療、介護につなぐ退院支援部門の看護師の役割について、事例を紐解きながら、アセスメントの視点や実践の工夫を具体的に学びました。また、意見交換によって参加者のみなさんが抱えている思いや疑問から学びを深めることができました。

きらり☆看護技術を学べる！
地元創成看護を担う看護師リカレント教！

地域包括ケア1



2023年10月11日（水）13:10～14:10
神戸市看護大学 在宅看護学分科 准教授 丸尾智実

地域包括ケアシステムとは



受講生からの声

- ・地域包括についてぼんやりとしか、わかっていなかったことをしっかりと確認することができました。
- ・急速に進む高齢化社会において、地域包括ケアの役割の重要性を改めて感じました。
- ・地域で働く看護職員といっても、さまざまな場があること、自分のやりたいことを考えるきっかけとなりました。
- ・これからの働き方について考えないといけないなと思いました。
- ・どうすれば患者、家族の望む療養環境を整えていけるか、他職種や地域と連携していく必要性を改めて感じました。
- ・退院支援について学習をしたいと思います。また生活困窮者の方も多くその方たちがしかたなく家に帰らざるを得ないというのもよく目にします。地域で使える社会資源について色々な情報をアンテナを張って知ることができれば良いなと思いました。
- ・デイサービスでパート勤務をしています。利用者さんについては何かとケアマネを通さないといけずもどかしい感じがします。ナース同士で気軽に話したりメールしたり相談しあえるネットワークがあればいいのに、と思うことがあります。講師の先生も普段から顔の見える繋がりが大切と仰ってましたが、本当にその通りだと思います。もっと地域のナース達が交流出来る場があればいいのに、と思っています。

(2) キャリア開発

講師：澁谷幸（神戸市看護大学）

キャリア開発は、このプログラムの初回と最終日の2回開催しました。初回授業では、キャリア開発に関するいくつかの理論を紹介しながら、このプログラムに参加しようとしたこと自体に意味を見いだしてもらい、これからの学習を意欲的に受講いただけることをねらいとしました。また、最終日の授業は、本プログラムの学習過程の振り返りや、人として、看護師としての自分の歴史に意味を見いだしてもらえるようグループワークを中心に活動してもらいました。受講生の中にはご自分のキャリアやこれまでの自分の歩みに自信が持てず悩んでいる方もおられたかもしれませんが、受講後アンケートの結果からは、受講生の皆さんが自分の歩みを肯定的に捉え直し、自信をもって次の過程に進もうとされる意見が見られ、本講義の意味や本プログラムにおける科目の意義は達成できたものと考えます。

キャリア とは

時間的持続性ないしは継続性を持った概念

生涯労働観※1
生涯過程における様々な役割の組み合わせ Super, D. (1980)



キャリアとは 生きているプロセス・生き方そのもの

※1厚生労働省「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会」刊

受講生からの声

<初回>

・改めてキャリアを思い返すと、どういう自分になりたかったのか見失いかけていたことに気が付かされました。これをきっかけもう一度、自分づくりを考えていこうと思います。

・いろいろ悩みながら仕事をしている中で、今回のプログラムに参加したことも仕事の制約があり、職場に迷惑をかけながら受講するのなやめたほうがよかったです。仕事は頑張ってきた積み重ねでうまくいっているものであり、今回の受講は間違っていないと少し救われました。

<最終日>

・過去及び将来のキャリアを不安に感じていましたが、肯定的に捉え直せるような講義でした。

・病棟教育担当となり、行き詰まり、どうしていけばいいか悩んでいた時に、この研修を声かけてもらいました。セレンディピティだったのだと思いました。相手に学ばせようとするのではなく、まずは自分が学ぶと思って参加させてもらいました。そして、本当にたくさんの学びを得ることができ、感謝しています。

・考える力がいつの間になくなったというよりは、考えない楽な方を選んでいたいということに気がついた。これを機にしっかりと考え自分の意見を言うて行きたいと思います。

(3) フットケア

講師：西田壽代（日本トータルフットマネジメント協会）

桜井祐子（日本トータルフットマネジメント協会）

共同企画 池田清子

フットケアでは、講義半日、演習1日のスケジュールで、足のアセスメントからケアに必要な知識と基本的な技術について学んで頂きました。受講生は、初めてフットケアを学ぶ方とすでにスクール等で学んでいる方がおられましたが、それぞれに新たな発見や学び直しをされていました。また講師のデモンストレーションを間近に見ることで、受講生は、用具の使い方やフットケアの一連の流れを掴むことができていました。事後のアンケートで「毎日、きちんとケアすることが足の健康につながる、フットケアが転倒予防につながる」とのコメントを頂きました。この事はとても大事なことで、フットケアが特別なケアではないこと、全ての患者に必要なケアであることを確認する機会になったのではないかと思います。今後は、ドップラーを用いた血流評価、高齢者や疾患がある方のフットケアについても知りたいとの希望があったことから、研修の内容について検討したいと思います。

受講生からの声



【1日目のオンライン講義】

- ・毎日きちんとケアすることで足の観察につながることに。
- ・フットケアが転倒予防につながることに。
- ・時間がないからできないのではなく、できることを考えてケアする、という言葉が突き刺さりました。今日の講義を振り返り、記憶に残したいです。
- ・浮腫の方に、靴下を裏返して履くことや、足裏には、指関節1つか1.5ぐらいを塗布することなど、実践的に教えて頂いたことが大変印象に残りました。

【2日目の演習】

- ・足から健康になるフットケアは日々のケアが大切でありアセスメントしてちゃんと指導ができるようになりたい。これからも授業として開講してもらいたいです。
- ・とても面白かったです。高齢者、疾患を持った方へのケア方法をもう少し詳しく聞けたら、嬉しいです。
- ・爪切りの前に、アセスメントと爪掃除をすること、洗浄・爪周囲の掃除、爪切り、やすり、保清、マッサージの一連が一番印象に残りました。本当にありがとうございました。
- ・桜井先生や西田先生の生の技術を間近で見れたこと。

(4) キネステティック

講師：柴田しおり（神戸常盤大学 保健科学部 看護学科）

共同企画 新澤由佳（神戸市看護大学）

講師は柴田しおり先生（神戸常盤大学）で、2日間、しっかりと「人の動き」を6つの視点でまとめた概念kinestheticを体験的に学び、人の自然な動きについて理解を深めることを習得しました。「楽に動くこと」を体験した受講生からは「目から鱗」と「これからも使える」と大変好評でした。からだの動きをうまく使うことによって「動かす介助」から「動きを引き出す介助」への変換を実感できた2日間でした。相手を尊重した楽な動きの支援を知ることから、自己の実践を振り返ることができ、受講者にとって貴重な機会となりました。2日間受講した7名が、「キネステティック基礎コース修了証」を授与されました。

受講生からの声



- ・今回は基礎ですが、まだまだ実践で活かせるよう勉強したいと思いました。具体的に、講習をどこに受けに行くのか、金額や開催時期がわかれば教えていただきたいです。
- ・すぐには実践できないかもしれませんが、キネステティック感覚について意識したい。
- ・日々、いかに力任せに、介助者のペースで介助してしまっていること、結果患者さんも介助する側も安楽ややり易さを感じていないことを実感しました。
- ・先生の手技が魔法のように感じてしまいました。柔らかいタッチで気が付いたら動いていました。すごいです。
- ・マスの動きを考えながら介助することは難しかったけれど、患者さんの力を利用したり、介助自体がリハビリ動作になっていたりということを体験できた。
- ・2日間ありがとうございました。教えていただいたことを振り返りながら明日からの看護にいかしていきたいと思います。

(5) 糖尿病看護面接技術

講師：畑中あかね（神戸市看護大学）

本吉裕美子（神鋼記念病院 看護部）

桑原 京子（神戸市立医療センター西市民病院 看護部）

1日目はオンラインで糖尿病面接をする上での基礎知識と最新のトピックスについての講義を行いました。内容は、糖尿病の病態、患者理解における看護師の視点、食事・運動療法・薬物療法（内服）と看護、合併症と看護についての講義と、食事・運動ナラティブ演習です。

2日目は対面で、薬物療法（インスリン）と看護、患者面接において必要な理論と方法などの講義を行い、1つの事例をアセスメントし面接計画を立てました。事例を用いて実際の患者面接を想定し、1人ずつ交代でロールプレイングを行いました。最後に外来看護や研修の学びについて、自由に話し合う時間をとりました。ロールプレイングは、看護師（役）が困った時に、ワイワイと全員の意見を聞きながら進める方法を取り、全員参加で楽しく進みました。糖尿病看護の基本的な知識や最新のトピックスとともに、演習を並行して行ったため、知識を活用しながら事例患者を想定した面接演習ができました。参加者からは、自己の客観的な振り返りができたこと、改めて患者の身体的状態や心理を考え、患者の理解に沿った看護実践ができたことなどの感想をもらい、糖尿病看護面接技術を向上することができたと考えています。

受講生からの声



(6) エンド・オブ・ライフケア

講師（ELNEC-J指導者）：高山良子（神戸市看護大学）、
藤原由佳（あさんて・はな訪問看護ステーション）、
向井美千代（兵庫県看護協会）、篠崎智子（北播磨医療センター）、
鶴屋邦江（新生病院）、正井志穂（神戸市立西神戸医療センター）

2023年度は全てモジュールを対面で講義・演習・グループワークを実施した。参加者はリカレント教育対象者8名に加えて、現在緩和ケアに携わっている看護師4名と大学院生4名の合計16名であった。講師・ファシリテーターはがん看護専門看護師、老人看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師の6名が担当した。

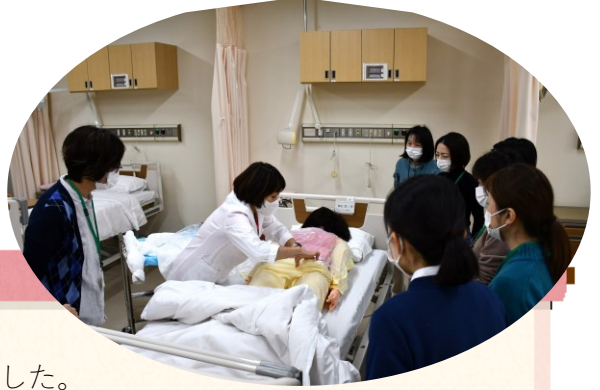
本プログラムはインタラクティブな学習を主としており、リカレント教育対象者だけでなく現在緩和ケアに携わっている看護師等も一緒に学び合えたことで学習の効果を高めることができたと考える。また、従来、ELNEC-Jは緩和ケアに携わっている看護師を対象に開催されることが多かったが、今回様々な経験と状況にある看護師を対象としていたため、ELNEC-Jの各モジュールにおいて「その人の尊厳を大切にする・尊重する」とはということか、立ち止まり、自分の思考、態度・姿勢、実践を丁寧に振り返って学び直す」ということを意識してプログラムを展開を工夫した。結果として、満足度4.9/5点の評価を得ることができた。



受講生からの声

(7) 清潔ケア

講師：内山孝子（神戸市看護大学）
澁谷幸（神戸市看護大学）



清潔ケアでは、講義と演習を6時間で実施しました。受講者は8名で、様々な背景を持たれている方が受講してくださいました。初回の講義では、清潔ケアの意義を確認し、清潔ケアが援助を受けるひととケア提供者にどのような影響があるかということ学びました。演習では、熱布バックケアを通じて清潔ケアは、清潔にすることだけでなく、安楽をもたらすケアであることを確認しました。参加者から、業務の中で、出血傾向のある患者さんの口腔ケアに困っているということで、当初の予定にはなかった口腔ケアの講義を追加して行いました。受講後のアンケートでは、「熱布バックケアは、看護師人生の運命の分かれ道だと思います。看護師としての価値が、演習後に内面よりパワーアップした感じがしました。施術中、体幹だけでなく、末梢も温まり、血液が流れているのが分かるほどでした。施術後は、頭ののぼせが消え、目の前の視界がとても明るくなった感じがでした。驚いたことに、その後何時間経っても、背部の暖かみがずっと持続しているのです。看護師の心のぬくもりも感じました」と参加者から好評でした。

受講生からの声

・熱布バックケアの素晴らしさと、一人でも多くの患者様へ是非、さらに広めたく、例えば熱布バックケア士のようなバッジの作製など、失礼ながらご検討頂けないでしょうか？

・今までどれほどの方に寒い思いをさせていたのかと熱布バックケアを通して思いました。短い時間で爽快感や安楽を手に入れられるなら本当に今後行っていきたいと思いました。

・特に印象に残ったことは、熱布バックケアの素晴らしさは勿論のこと、施術者の心意気でした。患者役になり、初めて体験する熱布バックケアの広く広がる暖かさも一番ですが、何よりも、それを上回る医療者や看護師の心のぬくもりでした。この高度な看護ケアの熱布バックケアを体感することができた今日は、看護師人生の運命の分かれ道だと思います。知っているのと知らないのとでは、看護師としての価値が、演習後に内面よりパワーアップした感じがしました。実際に体験して分かったことは、施術中、熱布の当たっている背中だけでなく、末梢の特に手も暖まり、血液が流れているのが分かるほどでした。また施術後は、のぼせが消え頭がスッキリし、目の前の視界もとても明るくなり、眼精疲労にも効いている感じがしました。その後何時間経っても、背部の暖かさが持続していました。講義の中で3回繰り返すことで覚えることができました。1回目は内山先生のご自宅の動画で流れを、2回目は実習室で手順を見せて下さったこと、3回目は患者役に準備ができたかの確認をして、実際準備をし、カーテンに入って施術をしたことでした。繰り返して教えて頂いたことで、実践に活かせるように感じました。

(8) エンゼルケア

講師：大垣麻里（湯灌・納棺・メイクサービス 株式会社沙羅）

共同企画 新澤由佳（神戸市看護大学）

エンゼルケアでは、講義と一部演習を3時間で実施しました。受講者数は10名で、そのうち、今回初めてエンゼルケアを学習したという受講者が多く占められました。講義では、時間経過に伴うガスの貯留や腐敗の進行等ご遺体の変化およびその変化に基づいたエンゼルケアについて、演習では点滴抜針後等の圧迫止血の強さを体感していただきました。受講後のアンケートでは、「退院後の様子を想像したこともなかったので大変衝撃であり、ケアの重要性を思い知りました」等、生前の身体とご遺体との身体の状態の違いから適切な処置方法を理解でき、ご遺族のためにも正しい知識と技術を身に付ける重要性を感じられたようでした。エンゼルケアについては、基礎教育や臨床現場ではほとんど勉強会がなされていない現状があります。今回の授業では、基礎知識から最新の知識までを得られ、即実践できる内容であったことから、参加者から好評でした。



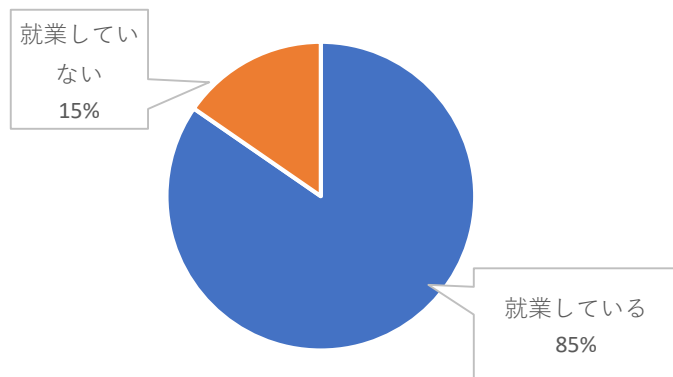
受講生からの声

- ・『しっかり傷や針穴など圧迫しないといけないんだな』と思いました。きれいに貼って終わりはだめなんだと知りました。
- ・腹部のガスを冷やし、体液や颜色を防ぐことを学びました。また、点滴の後には出血の恐れがあり、エンゼルケアの問題点であることも知りました。今後は、大量出血を予防できますよう、確実に冷却し様々な技術をさらに身に付けていきたいと考えております。
- ・今までエンゼルケアの講義を受けたこともなく、退院後の様子を想像したこともなかったので大変衝撃であり、ケアの重要性を思い知りました。生前のケアとして、皮膚を守り傷付けないことに重点をおいていたため、死後処置も皮膚の脆弱性を気遣ったり、最小限のテープやガーゼでケアしていたことを深く反省いたしました。退院後のケアを増やすことで、結果的に患者、家族に負担をかけてはいけないと反省しました。また先生の講義を受けたいです。
- ・退院後の体液もれによる汚染について全く知らなかったため、写真全てが衝撃的でした。ご家族のその時の気持ちを考えると、このことを部署のみんなにも知ってもらい、私たちにできることをして行くことができれば、と思いました。

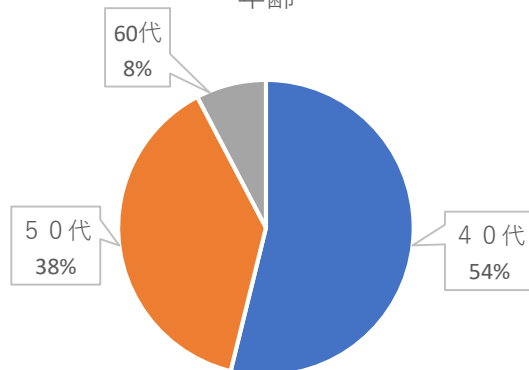
2. 受講者の概要（受講前のアンケートより）

1) 受講者の状況

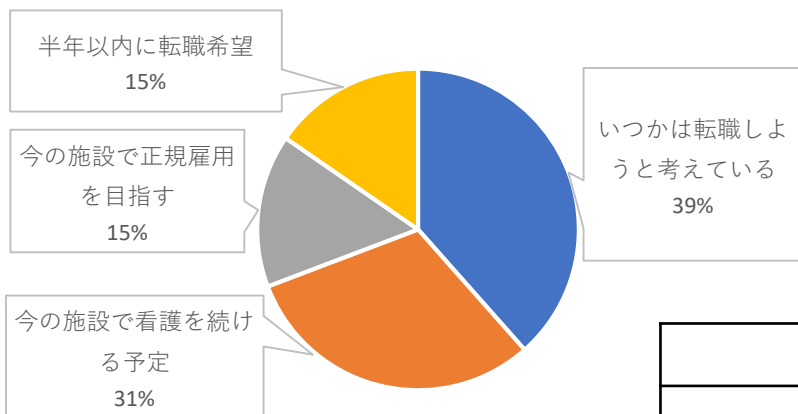
就業状況



年齢



キャリアの希望（就職・転職・スキルアップ）



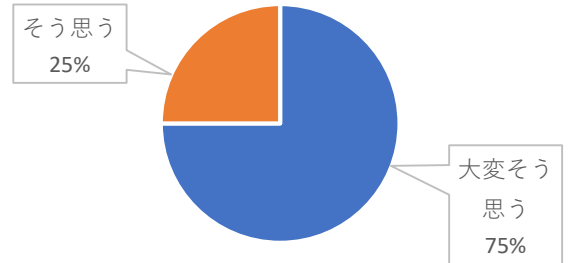
就職者の雇用形態					
正規			非正規		
6人（55%）			5人（45%）		
神戸市内	県内	県外	神戸市内	県内	県外
4	1	1	2	1	2

(2) プログラムの満足状況

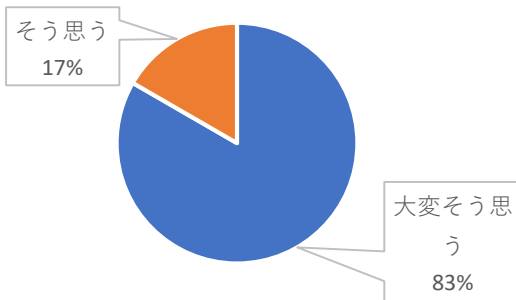
オンライン授業は問題なく受講できた



看護の継続や新しいキャリア（働き方）への意欲向上

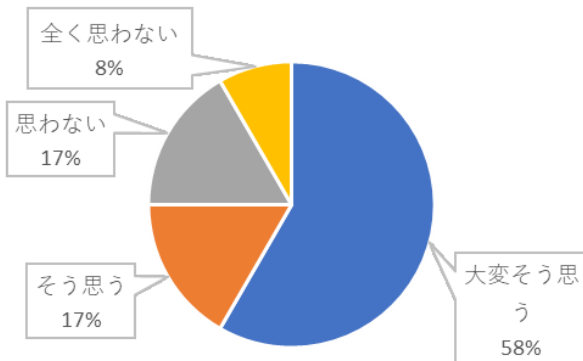


看護実践への自信につながった

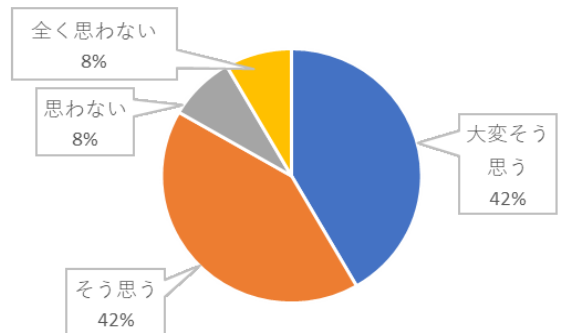


3) 就職・転職の意向とプログラムの効果

就職・転職への意欲向上につながった



就職・転職への不安軽減につながった



3. 神戸看護学会報告

第8回神戸看護学会学術集会 シンポジウム報告

「地域の人々のセルフケアを支える看護」をテーマとして2023年10月26日～12月3日に開催された、第8回神戸看護学会学術集会（大会長 二宮啓子 神戸市看護大学）において、本リカレント教育についてのシンポジウムを企画、開催いたしました。シンポジウムのテーマは『大学におけるリカレント教育を考える～大学における看護師リカレント教育プログラムについて～』とし、演者および講演テーマは以下の通りでした。

企画 リカレント教育担当者 池田清子（代表） 小山富美子（事務局担当）

- | |
|--|
| 1. リカレント教育プログラムの実施概要と今後の展望：
池田清子（神戸市看護大学 慢性病看護学分野 教授） |
| 2. 講義とインターンシップの実際〈老年看護〉：
石橋信江（神戸市看護大学 老年看護学分野 准教授） |
| 3. 講義とインターンシップの実際〈在宅看護〉：
丸尾智実（神戸市看護大学 在宅看護学分野 准教授） |
| 4. リカレントプログラムを受講した体験と学び
梶谷優介（株式会社Es Lible 訪問看護ステーションとわ 看護師）
田中雅子（芦屋こころとからだのクリニック、西本町アイクリニック 看護師） |
| 5. 全体討論 演者全員 司会 小山富美子（神戸市看護大学 准教授） |

このシンポジウムの意図は、2022年度に実施した看護師リカレント教育プログラムについて企画者、講義・インターンシップ担当教員、プログラム修了者が共に振り返り、本学がリカレント教育をどのように位置づけるのか、今後の展望、課題について意見を交わし、大学における看護師リカレント教育の今後の在り方についての示唆を得ることでした。2022年度に本学が文部科学省「令和3年度補正予算 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の採択を受けて本事業がスタートし、2年目を迎え、自走での開催の初年度を迎えておりました。この年から、いちかんダイバーシティ看護開発センターのグループの1つとしての位置づけとなり、持続可能な事業運営の在り方を検討する必要性がありました。

代表の池田教授から、2022年度の成果として22名の参加者で非常に好評であったこと、就職につながった方が4名であったことが述べられました。そして、国家資格を持つ看護職のキャリア開発の困難さ、単科大学で行うことの意義、受講者のニーズとシーズのマッチングの課題、今後の継続における人材と財源確保の課題が述べられました。次に、老年看護担当の石橋准教授より、参加者が無理なく学べて実践と結び付けやすい講義の工夫と、インターンシップ受講された方が高齢者施設における看護への学びを深め、就職につながった例

の紹介がありました。さらに、在宅看護担当の丸尾准教授より、受講者の希望や経験を踏まえて講義内容を構成したこと、インターシップでは希望者と訪問看護ステーションとのマッチングに十分時間と労力をかけたことで好評を得たとの報告がありました。本プログラムの強みとしては、今必要な情報を包括的・網羅的に提供できること、課題としては、マッチングの難しさ、業務との調整などがあることが述べられました。

リカレントプログラムを受講した体験と学びとして、2022年度の修了者である梶谷さん、田中さんから本プログラムの良さについて語っていただきました。具体的には、看護大学の教員に学ぶ信頼によって充実感があったこと、講義や演習の双方向のやり取りによって、日頃の疑問の解決や就職への不安の解消ができたこと、キャリア開発を考える科目で、自分を認めることができたこと、フットケアなど新しい看護技術を学べたこと、経験や価値観が異なる看護職と話し合えたこと、予防から看取りまで幅広く学べたこと等多くが語られました。さらに、学習意欲が高まり大学院進学を検討していることや、新しい職場にチャレンジできたとの成果が述べられました。リカレント教育への要望としては、教員とのディスカッションの時間が欲しいとの意見がありました。

全体討論では、日頃からの疑問や、自身のなさを解決することが参加動機であることから、リカレント教育では、知識だけでなく、討論を交えて看護の奥深さに気づくこと、立ち止まって看護や自己のキャリアを振り返ることが、さらなるキャリアへの希望につながると、改めて気付くことができました。仕事や家事、育児の合間で受講するからこそ、ゆとりのある時間として討論などアウトプットする時間を設けることのニーズがあり、これは、看護職のリカレント教育に重要な要素であると考えます。

また、将来的な展望として、プログラム卒業後も、再受講や単位制などを取り入れた継続して看護技術を学べる仕組み、個々のニーズに合う科目のパッケージなど、今後の運営に向けての検討課題が話し合われました。神戸市看護大学ならではのリカレント教育の礎にできるよう、さらに検討を重ねていきたい、と締めくくられました。

4.事業のまとめ

今年のリカレント教育プログラムでは**13名**の皆様との新しい出会いがありました。兵庫県、大阪府をはじめ岡山、京都など遠方からもお越しいただきました。本当にありがとうございました。

プログラムの参加率が**80%以上は9名（75%）**と高く、就職・転職相談は兵庫県看護協会のナースセンターにつなぎ、受講生のニーズにあわせた就職先が探せるよう協力をいただきました。その他、アンケートの自由記載には、「この年になり学び直すことで、学習意欲が高まりより深く物が考えられるようになり、課題をクリアできる喜びがあり看師で良かったと思えるようになりました。」「今回の学びを職場でどう活かせるか、楽しみです。」「忙しくすぎて行く毎日の中で立ち止まり考える機会になった。」「自分の仕事を優先して終わらせたいがため待てない自分がいた。患者優先、中心でなければならぬと改めて思う。」等、看護の学び直しや看護の本質に触れる内容が多くありました。

また、科目を担当された講師からも熱心に学ぶ受講生に力をもらいました、受講生とのデスカッションが充実していましたなどの声を聞きました。これらのことから今年もプログラムのねらいは達成できたと考えます。

本プログラムの修了生が今後も地域で活躍されることを願っております。

来年度の課題としては、受講生が予定数（募集人数20名）を下回ったことから、1）これまで訪問した施設以外の神戸市内の医療施設、医療福祉施設を個別に訪問し、プログラムの丁寧な説を行い、受講生を募ること、2）就業中の受講生が多いことが見込まれることから、プログラムの開講期間を延長する、3）地域で働きたいとの受講生の希望があることから、訪問看護ステーションや高齢者福祉施設等での見学実習を積極的に検討する、4）リカレント教育を持続可能なプログラムにするために**2024年度**からは有料化を検討する、などがあります。

これらの課題を1つずつクリアできるよう取り組んでまいりたいと思います。

リカレント教育グループ長 池田清子

講師一覧

科目	講師	所属
地域包括ケア	丸尾 智実	神戸市看護大学 在宅看護学
	金中 宏江	神戸市医療センター中央市民病院 患者総合支援部
キャリア開発	澁谷 幸	神戸市看護大学 基礎看護学
フットケア	西田 壽代	足のナースクリニック 代表 日本トータルフットマネジメント協会 会長
	桜井 祐子	株式会社グローバル・ケア 取締役 足の専門学校SCHOOL OB PEDI 校長 日本トータルフットマネジメント協会 理事長
キネステティック	柴田 しおり	神戸常盤大学 保健科学部 看護学科
糖尿病看護面接 技術	畑中 あかね	神戸市看護大学 慢性病看護学
	本吉 裕美子	社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院 慢性疾患看護専門看護師
	桑原 京子	神戸市立医療センター西市民病院 糖尿病看護認定看護師 慢性疾患看護専門看護師
エンド・オブ・ ライフケア	高山 良子	神戸市看護大学 慢性病看護学
	藤原 由佳	訪問看護ステーションあさんて・はな がん看護専門看護師
	向井 美千代	公益財団法人 兵庫県看護協会 教育認定部次長 がん性疼痛看護認定看護師
	篠崎 智子	北播磨総合医療センター 看護局 がん性疼痛看護認定看護師
	鶴屋 邦江	医療法人実風会 新生病院 看護部長 老年看護専門看護師
	正井 志穂	神戸市立西神戸医療センター 看護部 がん看護専門看護師
清潔ケア	内山 孝子	神戸市看護大学 基礎看護学
	澁谷 幸	神戸市看護大学 基礎看護学
エンゼルケア	大垣 麻里	湯灌・納棺・メイクサービス 株式会社 沙羅 代表取締役
キャリア相談	石橋 信江	神戸市看護大学 老年看護学

ダイバーシティリカレント教育グループ メンバー

氏名		所属
1	池田 清子	療養生活看護学（慢性病看護学）教授
2	小山 富美子	療養生活看護学（慢性病看護学）准教授
3	二宮 啓子	療養生活看護学（小児看護学）教授
4	澁谷 幸	基盤看護学（基礎看護学）教授
5	石橋 信江	健康生活看護学（老年看護学）准教授
6	丸尾 智実	療養生活看護学（在宅看護学）准教授
7	内山 孝子	基盤看護学（基礎看護学）准教授
8	高山 良子	療養生活看護学（慢性病看護学）講師
9	畑中 あかね	療養生活看護学（慢性病看護学）講師
10	後藤 由紀子	療養生活看護学（慢性病看護学）助教
11	新澤 由佳	基盤看護学（基礎看護学）助教
12	北 正明	事務局 経営管理課 担当係長
13	植村 茉菜美	事務局 経営管理課 担当
14	高橋 仁美	リカレント教育担当事務員